

## 鉢花用バラ新品種「スイングベル」の育成

加藤克彦・小枝 剛\*・宇次原清尚

Breeding of New Potrose Variety "Swing Bell"

Katuhiko KATO, Tuyoshi SAEDA, Kiyohisa UJIHARA

**要約**：本県鉢花の主力品目であるミニバラにおいて、本県の夏期の高温条件に適応し、優れた形質を有する品種を育成するため、1997年に28品種を親株に用い、95組合せの交配を行った。1998年に「ライズンシャイン」を母親にし「オレンジメイアンディナ」を父親とする組合せから得られた個体を選抜し、系統番号97-6を与え、特性調査・特性検定（形質の安定、生産能力等）を実施した。1999年には「スイングベル」と命名し、種苗登録申請を行った。

「スイングベル」は、草丈が15cm程度のわい性となる鉢花向きの品種で、花色が鮮橙赤、花形は丸弁平咲き、花径は3cm程度の小輪である。花色の移行性は少なく、夏期の高温時でも比較的安定している。また、棘の着性が対照品種よりも少なく、挿し木等の作業性に優れる。

**キーワード**：鉢花用バラ、新品種、鮮橙色、品質安定、作業性良

### 結 言

岐阜県の鉢バラ生産は、西濃地区を中心に盛んに行われており、1999年には栽培面積7ha、生産額約8億円で本県の鉢花生産品目の第3位に位置する主要品目であると共に、全国生産の80%以上のシェアを持ち日本一の生産を誇っている。

しかし、大企業の参入による新興大産地の出現、他品目との競合等、産地間競争は激しさを増してきている。このような状況の中で、産地としてさらなる発展を図るためには独自ブランドの確立が重要な戦略となる。そこで、産地ではブランド化を可能とする優れた新品種の開発に大きな期待を寄せている。また、鉢バラ用ミニ品種は毎年多数の新品種が発表されているが、その大部分は海外で育成されたものである。このため、本県での環境適応性等不明な点が多く、生産者は導入にあたって大きなリスクを負っている。

そこで、バラ苗およびミニバラ生産日本一を誇る本県の豊富な育種素材が利用できる背景を活かし、夏期の高温条件でも生育・品質が安定し、優れた形質を持つ鉢用ミニバラ品種の開発を目的に育種を行ってきた結果、優れた形質を有する「スイングベル」を育成したので、その特性および育成の経過について報告する。

なお、本品種の育成にあたりミニバラ研究会、バラ新品種開発研究会の皆様にご多大なるご助力を頂いた。ここに記し感謝の意を表する。

\* 現生物産業技術研究所

### 育成の経過

1997年に24の営利品種および独自育成した4系統を用いて95組合せの交配を実施した。1998年に得られた交配実生を播種し、発芽した個体に対して1次選抜を行った結果、「ライズンシャイン」に「オレンジメイアンディナ」の交配組合せから得られた1個体のみを選抜し「97-6」の系統番号を与え、挿し木による増殖を行った。

1999年には2次選抜・特性調査を実施し、鉢花としての特性、年間を通しての品質の安定性を検討するとともに、両親を用いて比較栽培を行い、生産性等についても調査した結果、有望であると判断された。また、新品種開発研究会においても検討を行い、新品種として有望であると選定され、育成を完了した。

2000年にはミニバラ研究会により「スイングベル」と命名され、種苗法による品種登録出願を行った。

1997年 交配 ♀「ライズンシャイン」×♂「オレンジメイアンディナ」  
↓  
1998年 1次選抜：花色、草型、花形等を調査  
↓  
1999年 2次選抜、特性調査：花色・花形等の安定性、耐暑性、両親と同環境で比較栽培、有望形質の評価、新品種開発研究会で承認  
↓  
2000年 「スイングベル」と命名、農水省に対し種苗登録申請

## 「スイングベル」の特性

### 1. 生育特性

草丈は15cm程度となるわい性で、花付きが多花となり、株張りも叢性となる鉢花向きの品種である。生育は比較的早く、旺盛である。

花色は表面が鮮橙赤色(園芸植物標準色表JHS0706)、裏側は濃黄ピンク色(同0712)、基部が明黄桃(同1905)で、父親である「オレンジメイアンディナ」とほぼ同じ花色となる。

花形は丸弁の平咲きで、対照品種の「オレンジメイアンディナ」によく似ている。また、花の大きさは直径3cm程度の小輪で、対照品種の「レッドミニモ」とほぼ同じ大きさとなる。

樹勢が比較的強く、肥料分が多いと徒長等によって草姿が乱れやすくなるため、適正な肥料濃度での栽培管理を行う。

病害虫の抵抗性は中程度であり、通常の病害虫防除は必要であるが、ウドンコ病に対しては一般的な品種に比較して同等か、やや強い。

### 2. 品質

花卉数は25枚で普通程度であるが、花卉の劣化は遅く鑑賞期間が比較的長い。また、一般的に夏期の高湿条件下では、花卉の減少や花の矮小化が見られるが、本品種では比較的少ない。さらに、花色の移行性もほとんど無く、年間を通して品質が安定する(表1)。

棘の着生程度は対照品種に比較して少なく、挿し木等の作業性にも優れる。

### 4. 普及性

現在流通しているミニバラ品種の花色構成は、赤系品種が最も多く全体の60%を占め、次いでピンク系品種、黄系品種、その他となっており、赤系品種が主要花色となっている。

今回育成した「スイングベル」は、赤系花色で流通している「オレンジメイアンディナ」や「レッドミニモ」に対して、夏期高温時でも花色・花の大きさが安定しており、花着きも良好であることから、これらの代替品種として利用することができる。

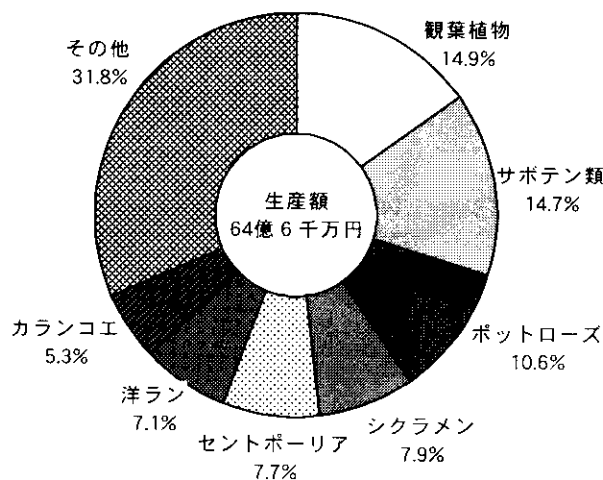


図1 岐阜県の鉢花生産品目の割合

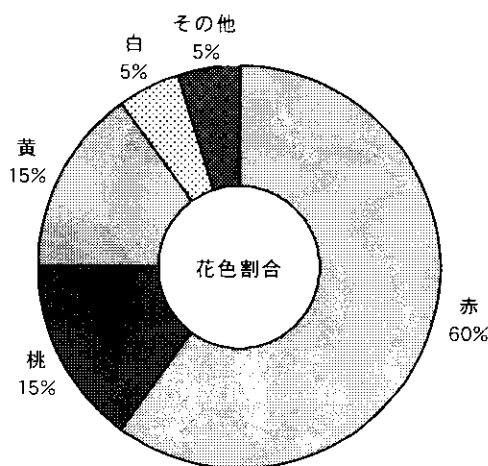


図2 ミニバラ栽培品種の花色別割合

## 引用文献

- 1) 農林水産省花き対策室(1999): 花き生産需給計画. 花き情報

表1 スイングベルの花・草姿の特性

品 種 名	花色	花 形	花 径	樹 形	株立ち
ス イ ン グ ベ ル	鮮橙赤(0706)	平 咲	小	半直立	叢 性
オレンジメイアンディナ	濃橙赤(0707)	平 咲	やや小	横張性	叢 性
レ ッ ド ミ ニ モ	鮮 赤(0407)	高芯咲	小	半直立	叢 性

表2 スイングベルの生育特性

品 種 名	節間長 cm	本 葉		小 葉		花卉数 枚	花持ち
		葉長 cm	葉幅 cm	葉長 cm	葉幅 cm		
ス イ ン グ ベ ル	2.1	5.3	3.8	2.3	1.5	16~35	長
オレンジメイアンディナ	1.5	7.5	6.5	4.0	1.5	40~59	極長
レ ッ ド ミ ニ モ	1.4	5.5	3.5	2.4	1.3	35~39	極長

表3 同色系品種との比較

品 種 名	耐暑性	花色	鑑賞性
ス イ ン グ ベ ル	○	◎	○
オレンジメイアンディナ	○	△	△
レ ッ ド ミ ニ モ	△	×	○



レッドミニモ スイングベル オレンジメイアンディナ

図3 花の大きさの比較



レッドミニモ スイングベル オレンジメイアンディナ

図4 草姿の比較

# 突飛るで関コ赤前透左大モその園茶世間山中



新品種「スイングベル」



スイングベルの栽培